

☆☆☆ 協会だより ☆☆☆

§ 第1回 SPF 豚研究発表会

昭和42年に農林省家畜衛生試験場柴田重孝場長（当時研究第1部長）を長とする SPF 豚研究班が組織され、国、県、民間で畜産目的のための SPF 豚生産・増殖に関する基礎的な協同研究が開始された。ところで、これらの協同研究が軌道にのり、各分野における成績も出されてきたため、さる9月22日千葉県養豚試験場で第1回の SPF 豚研究発表会が行なわれた。

午前には柴田会長および菅野保開催委員長の

あいさつにつづき丹羽日本養豚研究会長および池田千葉県農林部長の祝辞があった。

出席者は約100名で SPF 豚研究会員のほか、農林省および各県関係、飼料・薬品関係、養豚研究者と広範囲におよび、本研究内容が各方面から注目されていることがうかがわれた。なお研究発表の内容抄録については本文を参照していただきたい。

§ 昭和46年度日本 SPF 豚協会定例理事会

さる10月27日、全購連会議室で SPF 豚協会の定例理事会が有吉修二郎会長のもとに開かれた。

まず千葉県養豚試験場長菅野保氏から各県の豚清浄化の研究課題設定と農林省におけるこれらの取り上げかたの進退状況の紹介があり、これらに対して2、3の討議があった。

このことをふまえて、赤池事務局長（アミノ飼料）から (1) SPF 豚研究会と協会との関係 (2) 協会財政の現状と今後の問題 (3) 協会誌「SPF Swine」の今後のすすめかたについての問題提起があった。

決 議 事 項

- 1) SPF 豚（農場も含む）の認定の具体化のため早急に微生物検定小委員会を召集し、

SPF 農場の範囲、SPF 豚と認定すべき豚群の限界、認定法の具体的方法などを検討することとなった。

- 2) 県、民間を通じて SPF 豚を含む種豚の浄化対策にかなり広範囲に関心がもたれてきたので、いままでの SPF 豚研究会の性格を大幅にあらため、SPF 豚に関心をもつ大方のひとびとに参画してもらいたい。そのために設立委員会を設け、会員募集、会則設定にあたる。
- 3) 「SPF Swine」は SPF 豚研究会誌として編集発行する。

なお最後に協会財政に関し、法人会費の大幅値上げおよび寄付の募集の実現などの申し合わせがあった。